

加工・業務用野菜取組事例 ⑪

調査日(更新日)	平成26年12月5日(平成一年一月一日)
----------	----------------------

1. 事業者基本情報	
事業者名	(株)フジフーズ
代表者名	代表取締役 名倉敬
所在地	香川県さぬき市長尾西1881
連絡先	TEL:0879-52-3131 FAX:0879-52-3444
ホームページ	http://www.fujifoods-ruchan.co.jp
連絡先担当者	取締役本部長 橋本忠士 企画開発課長 庵原千明

2. 経営の概要											
経営形態	株式会社										
事業概要・取扱商品	ぎょうざ、焼売、春巻き、冷凍うどん、各種冷凍食品等100種類										
販売額	約20億円										
労働力・構成員	従業員112名(男38名、女74名) うち派遣社員2名含む										
生産・加工施設	<table border="0"> <tr> <td>第一工場</td> <td>第二工場</td> </tr> <tr> <td>5,109.16㎡(敷地)</td> <td>1,400.00㎡(敷地)</td> </tr> <tr> <td>2,623.10㎡(建物)</td> <td>1,400.00㎡(建物)</td> </tr> <tr> <td>日産18t</td> <td>日産5t</td> </tr> <tr> <td>ぎょうざ、焼売製造</td> <td>冷凍うどん製造</td> </tr> </table>	第一工場	第二工場	5,109.16㎡(敷地)	1,400.00㎡(敷地)	2,623.10㎡(建物)	1,400.00㎡(建物)	日産18t	日産5t	ぎょうざ、焼売製造	冷凍うどん製造
第一工場	第二工場										
5,109.16㎡(敷地)	1,400.00㎡(敷地)										
2,623.10㎡(建物)	1,400.00㎡(建物)										
日産18t	日産5t										
ぎょうざ、焼売製造	冷凍うどん製造										
経営の推移と取組のきっかけ	昭和45年7月に設立。大阪でぎょうざを製造・販売していたが、昭和45年に香川県に進出した。 当地進出にあたり、香川県農協との関係を築き、当農協の子会社として、長尾周辺で収穫されるキャベツを原料として活用し、ぎょうざ等の製造販売を開始した。また、創業当初からの主な出荷先である大阪方面へ近いといった立地条件も当地進出の決め手となった。										

3. 加工・業務用野菜の取組概要	
原料入荷関係 (時期・産地・量)	キャベツ 香川県(1~8月、11~12月)、長野県(9、10月)、北海道(11、12、2月) 1日に7~8トン使用 たまねぎ 兵庫県(5月)、北海道、九州 にら 高知県
主な出荷先	県内のスーパー、コンビニ、生協、学校給食のほか、関西方面等へ出荷(ほとんどが関西方面の量販店)
販売額	約20億円
出荷先からのニーズ	主原料のキャベツや豚肉に香川県産を使用しているため、香川県産にこだわる学校給食用(香川県産を50%以上使用)からも注文を受けている。納入までの期間が短い場合もあるが、出荷先からのニーズにきちんと対応している。また、原料の表示について、求められている。量販店からの本日中の注文等にもできる範囲で対応している。
その他特徴的な事項等	地元農家のキャベツで賄えない時期には、北海道、長野県等から仕入れをし、国産原料にこだわったぎょうざの製造に努めている。 また、農家ごとの生産履歴が確認でき、信頼できる供給者から購入した原料のみを使用し、品質に問題があれば速やかに改善できる体制を整えている。 大量のキャベツを取り扱うため、農家との直接契約は難しく、農協を通じて契約を行っている。キャベツの生産管理はJAのキャベツ部会を通じて行っているため、品質にバラツキが少なく、安心・安全である。
取組の成果	ぎょうざに使用しているキャベツはすべて、産地直送の生キャベツを使用している。原料キャベツの産地周辺に実需者が位置し、連携を取り合うことで、さらなるおいしさ、安心が生まれている。
今後の展開	消費者のニーズに応じた商品づくりを展開していく。どのお客様向けにどのような商品を提供するかなど、細やかなニーズに対応した商品の製造を行っていきたい。
生産者や産地に対する要望等	バラツキが少なく、一定の品質のものを安定供給して欲しい。また、原料の品質の悪さなどに対して、産地と一緒に改善対策ができるようなつながりが大切だと考えている。
事業者から一言	後継者不足、高齢化が進む中、原料として使用する農作物の必要量の確保が重要である。品質、履歴の確かなものの調達は個人契約ではなかなか難しく、JAにお願いしている部分大きい。JAのキャベツ部会を通じて、部会内で品質が安定したもの、安心して使用できるものの供給をお願いしたい。 また、安心・安全、当たり前を当たり前として供給してもらうために、地元農業者との意見交換、現地検討会にも積極的に参加している。地元農産物を有効に活用し、商品の販売促進において差別化を図っていきたい。

